

生石地区タウンミーティング

平成24年2月10日（金曜）

【市長】 今日で18回目のタウンミーティングになりますけれど、こんなに「こんばんは」の声がそろっているところは珍しいと思います。また、こんなにたくさんの方がお集まりいただきまして、ありがとうございます。このタウンミーティングですけれど、職員は市役所で皆さんが来るのを待ってるほうが楽だと思います。でも、そうじゃない、私たちが地区に出向いていくことが必要ではないかと思ひまして、就任してから始めさせていただきました。松山市内には41地区ございます、今日で18地区目ですけれど、タウンミーティングではまず、地区の魅力について皆さんに話していただきます。それはなぜかという、松山市の41地区それぞれに歴史があって特徴があると思います。それぞれの地区の魅力は、行政ではなくてそれぞれの地区にお住まいの皆さんが一番よく知っていらっしゃると思います。その魅力を活かしたまちづくりをすることが一番大事だと思います。そうではなくて、例えば行政が主体となってまちづくりをしたら、それぞれの地区特徴をとらえないで、いったら金太郎あめのような地区が41地区できてしまいます。その集合体である松山市、金太郎あめのような地区が41集まった松山はおもしろくないですよ、それぞれの地区が魅力をとらえて輝くとその集合体である松山市はより輝くと思います。ですのでまず、皆さんに魅力について認識をしていただこうと思っています。そしてその後は課題とか問題点を教えていただこうと思っています。このタウンミーティングを開催するにあたりましては、地区の広報委員会の福山会長はじめ、役員の皆様のご協力をいただきました、ありがとうございます。またこのタウンミーティングというのは、もう一つ、やりっぱなしにはしません、聞きっぱなしにはしませんというのがこの松山版タウンミーティングの特徴です。やりっぱなしにする、聞きっぱなしにする、楽です。でもそうじゃない、今日、担当の部長、課長たちも来ておりますので、この場でお答えできることについてはもちろんこの場でお答えいたしますけれど、たとえば、国と絡むもの、県と絡むもの、また、財政的な問題があるものについては、いったん持ち帰らせていただきます、それも1カ月を目安に、この生石地区にお答えをお返しするようにいたします。それは、いっぺん持ち帰らせていた

だいて、国、県に問い合わせる、国や県から答えが返ってくる、それから松山市としてこういう方針を出そうということで、だいたい1カ月くらいのお時間をいただく形になるんですけど、必ず返答はいたします。やりっぱなしにはしない、聞きっぱなしにはしないというのが松山版のタウンミーティングであります。さて、松山市の仕事は例えば図書館があったり、松山市立の小学校中学校があったり、また、競輪場があったりいろんな分野に幅広く、上水道下水道とかもありますけれど、幅広くまたがっております、それぞれの専門職がおりますので、今日部長、課長が来ておりますので、自己紹介をさせます。

【市民部長】 皆さんこんばんは、市民部長の三好龍彦と申します。本日のタウンミーティングの統括をしております。普段の業務といたしましては、窓口サービス、つまり市民課とか支所、市内22支所7出張所、それからパスポートセンター、消費生活センター、こういったところで窓口サービスしております、そのほかに男女共同参画、住民主体の地域におけるまちづくり、人権啓発、幅広い分野を担当しております。本日はよろしく願います。

【都市政策課長】 皆さんこんばんは、都市政策課の白石と申します。都市整備部では道路、公園等の整備、維持管理を行っておりますよろしく願います。

【保健福祉政策課長】 皆様こんばんは、保健福祉政策課の大濱と申します。保健福祉全般を担当しております。本日はよろしく願います。

【産業政策課長】 こんばんは、産業経済部産業政策課の中西といいます、どうぞよろしく願います。産業経済部は経済、雇用対策あるいは観光振興、農林水産の振興にかかわる事業をやっております。どうぞよろしく願います。

【生涯学習政策課長】 皆さんこんばんは、教育委員会生涯学習政策課長の青木と申します。教育委員会では小学校、中学校、公民館、文化財そういった分野を担当しております。どうぞよろしく願います。

【消防局総務課長】 こんばんは、消防局総務課の岡本でございます。私は消防、救急そして地域の防災、自主防災組織、防災面すべて担当しております。よろしく願います。

【市長】 今日は平日の夜間でお仕事でお疲れの方もいらっしゃると思います、

また、小雨が降っておりますけど、こういった中集まっておりますので、本当にありがたいと思っています。90分ありますので、肩ひじ張っていると疲れてしまいますので、ざっくばらんに、今日、今まで17地区で一番多い参加人数かもしれませんね、できるだけ多くの方のご意見いただきたいと思いますので、おひとりおひとりの発言が長くなりがちになると数が限られてしまいますので、コンパクトにお願いできたらと思います。どうぞよろしく願いいたします。

【男性】 本日は野志市長さんには生石地区タウンミーティングにお越しいただきありがとうございます。私からこの生石地区のよさや特徴について簡単に説明をさせていただきます。この生石地区は歴史や文化が多く残っている地域であり、特に教育というキーワードでは菅原道真ゆかりの天満宮が2カ所もあります。また、生石小学校が120周年を迎えるなど昔から教育熱心な土地柄でもあります。特に見守り活動や子育てにも熱心で地域の見守り活動に参加しておられる方は総数で220名以上おられます。青パトについても松山市で一番多い22台巡回するなど治安にも住民が一体となって取り組むところでございます。一方ではこの地域でも高齢化が進んでおり高齢者の交通事故が増えております。また、新興住宅や高層マンションなどが増え地域コミュニティにも影響が出ており不法投棄など環境美化にも問題が出てきているようです。そして何よりも昨年の東日本大震災のときのような大津波が来れば仙台空港のような状況も発生する可能性もあります。さらに深刻なのは、液状化の問題もあると聞き及んでおります。このように様々な課題が出ており、本日も関係者からこの問題が提起されるのではないかと考えております。皆様には本日はせっかくの機会ということなのでこの生石地区にとっていい方向に進むべく建設的な協議をしていただくことを期待しておりますのでどうかよろしく願いをいたします。

【市長】 今、お話をさせていただきましたように見守り活動が220名以上という実数を聞いて改めて驚きました。今、少子高齢化の世の中を迎えております。子どもの数が少ない、お年寄りの数が増えていく時代ですけれども、子どもは子宝という表現があるように地域の宝だと思います。地域で子どもを育てるのが大事な観点でありまして、私が就任してから幼稚園庭や保育所の園庭の芝生化を、地域で子どもたちを育てましょうっていう雰囲気づくりが一番の理由で始めたんですけど、地域で子どもを育てることができているのは素晴らしい魅力だと思います。

す。これを続けていっていただいたらと思います。学校が120周年という話もあったんですけども、私、前の仕事で愛媛県各地、中国地方も九州も行かせていただいて学校が地区の文化の中心だと本当に感じてきました。学校がなくなって地区の灯が消えたようになってるところを見てきましたのでやっぱり本当学校って大事なことだなんて思っています。どうぞこれからも地域で子どもを育てるといふのを大事にしていいただいたらと思います。

【男性】 私の発言の内容は3番の生活環境にかなりウエイトがあるんですけども、41地区の中で空港があるのは生石地区だけです。これは生石地区の誇るべき施設だと思いますので関連したお話をさせていただきます。基本的には空港と砥部の運動公園や動物園、それと道後地区、3地区を結んだ交通アクセスについてお話をさせていただいたらと思います。昭和55年に全国高等学校総合体育大会、55総体がありました。そのときに割り当てられた仕事が空港で外から来られる方を出迎えてそれぞれの会場への交通を案内する役目でした。そのときに思ったんですけども、もし、松山から砥部に向かって地下鉄が通ったらどんなにか楽だろうと。それは、空港から送り出すだけじゃなくて逆に動物園へ来た方が生石地区へ来るアクセスにもなりますし、道後行った方が来るアクセスにもなるんじゃないかということなんですが、もちろんそのときには市駅経由になりますから市駅でバス降りられた方がその所へまた移動させにゃいかんという不便さがあったので、直通があったらどんなにか楽だろうなと思いました。今度、平成29年に愛媛県で今度は国民体育大会がありますね。昭和28年から数えたら64年ぶりになるはずですけど、そのときにもまたどんどん来られると思いますし、例えば動物園の場合、白くまピースのお陰でかなり有名になってます。そうすると国体のついでに行ってみようという人もおられるんじゃないか、そういう方々を呼び寄せるためにも交通手段というのは非常に大事なことだろうと思います。普段どっかへ出かけるとき、急いでどうしてもお土産が欲しいというときに私時々空港の売店へ走ります。そうすると市内まで走る時間よりも簡単に行って、しかも品物がたくさんそろってます。空港での行事も友達から「今度餅つきがあるぞ、行かんか」とか言うて教えられて行きますけれども、ああいう行事をどんどん増やしてこの地区だけじゃなくて、市内や周辺からも人が呼べるようにすれば空港の存在がもっと生石地区の自慢の種、地域の活性化につながってくるんじ

やないかと思います。今度の国体に向けても関連して交通アクセスを検討していただけたらと思いますのでよろしくお願いします。

【市長】 今、空港から砒部、地下鉄でも走ってればいいんだって話あったんですけど、ちょっと全国の状況考えていただくと、地下鉄がある所って大体100万以上の都市になります。前に研究したことがあるんですけど、モノレールと地下鉄は1桁違うんです、つくる場合に。それはそうですよね。地下鉄は地下を掘ってからまた線路通すわけですから。ですからお金がもの凄いやれば地下鉄なんてこともあるのかもしれませんが、今はそれはたちまち難しいということになってしまいます。今、この空港周辺でいいますとアクセスは松山外環状線になります。なぜ、松山外環状線をつくっているかってことになると、ご存知の方も多と思いますけれど、松山南署のそばに松山インターチェンジがあります。松山インターチェンジから空港に来ようと思ったら、いっぺん33号に乗ってわざわざ市内に入ってきて、天山から環状線に乗ってぐるりとまわって新空港通り行って空港へ行くという形。今日も空港通り通ってきましたけどやっぱり混ndemasuね。今、24の拠点空港調べました。インターチェンジと空港の間どれだけ時間かかるでしょう。調べたデータがあります。24空港の中で30分以上時間がかかるのは4空港あります。そのうち松山空港が1つとあと3つは北海道の3つの空港です。北海道の空港と比べちゃいけませんよね。つまり松山空港と松山インターチェンジの間は時間がかかり過ぎてる。なぜか。市内にわざわざ車を入れなくてもええのに車が入ってきてるからです。だから市内も渋滞する。ですから松山外環状線をつくることによって、今30分くらいかかっているのを10分に短縮できるので、ただ短縮できるだけではなくて、緊急時にも緊急自動車が通りやすくなる。輸送用の車も通りやすくなる、また市内の渋滞が防げる。渋滞すると子どもたちが車の間から飛び出すこともありますね、渋滞しないことは交通事故の減少にもつながる。CO2の減少にもつながる。いろんないい意味があるので外環状線を整備しているところです。ですので地下鉄、モノレールなかなか難しいことですが外環状線を整備している状況です。もう1つ、空港ビルのことについてはまだまだ利用方法あると思います。これは、国、県、市という役割分担だったと思いますが空港ビルはこれからいろんな使い方ができると思いますのでこれからいろいろと考えていきたいと思っています。

【男性】 今言われました、私も考えておりました。同じように、私はモノレールを、旧空港通りの上をさっと市駅まで10分でモノレールだったら行くんですよ。今は35分かかります、バスで。それで道路延ばしてもいいし。砥部へ延ばしてもいいし。これはぜひ50年先を見越して、モノレールを何とか検討していただきたい。さっき市長さんがいろんなことを言われたんで、私が言おうとしたこと全部聞きましたんでありがとうございます。

【市長】 これについては今JR松山駅周辺整備事業をやっております。周辺整備は松山市、高架事業は県という役割分担をしてやっております。このJR松山駅の周辺整備事業ですけれども、環状線、松山総合公園の下まで市内電車を延ばす計画があります。これは遠い目標になりますけれども、その総合公園まで延びてきた電車を空港に向かって延ばしていくという遠い目標もあります。これは限られた財政の中でやっていかないといけないので、確かに東京や大阪、名古屋ですとか空港まで電車がきてますよね。すごくアクセスがよくなりますよね。ですので遠い目標になりますけど、大いに空港までの延伸ていうのは考えているところです。

【男性】 冒頭、会長からご紹介いただいた久保田町には履脱^{くつぬぎ}天満宮ってあるんですよ。それで高岡が弓敷^{ゆみしき}天満宮ですかね。久保田町内でお世話させてもらっただけですけど、ちょうど2月の4、5日が土日が例大祭で皆さんに来てもらったんですけど、20何人の氏子といますか役員の方がお世話させてもらうんですけど、皆さん高齢で、松並木これ自慢話ですけど100本以上松がありまして、これだけの松並木ある神社少ないですね、松山でも。それと松山の神社もいろいろあるんですけど、神社とお寺、安楽寺っていうお寺があるんですけど、その2つが同じ敷地にあるのは珍しい。私も方々見るんですけど。これは2月5日の愛媛新聞に掲載されてましたけど、済美高校の美術科の生徒が絵馬、干支奉納してもらってます。そういうことでお守りしとんですけど、松並木の消毒、これもなかなか手間かかるんです。それからいろいろやってまして、例えば消毒も十何人きとんですけどみんなボランティアで、それで聞いたところによると松山市の補助が1万円ちょっとあるらしい。薬剤費も足らなくてね。それから私も今年が副総代やらせてもらっただけですけど今年度。皆さんに申し訳ない思って。ま、そういうことでお守りしておるんですけど、やっぱ松山市にしたらその坂の上の雲と

大々的に金額を投じてやっとなですけど、もっとこうタウンミーティングでしたらこういう地元の歴史とか文化この辺をどう見られとんのか。例えば江戸時代の書物で久松藩の家老が書物書いとんです、それから愛媛おもかげ、それから久松藩の祖先神ということで400年間ずっと続いとんです。久松藩時代にはその藩がちゃんとしとったんですけど今は町民の手に委ねられとる。その辺が気になって皆さん歳をとっていくんで消えていくんじゃないかという恐れがあるんです。その辺を市長の意見をお聞きしたいと思います。

【市長】 これはそうですね、菅原道真ゆかりの神社を天満宮と言います、まさに学問の神様ですので今そんなシーズンになってきましたけども、北条に三穂神社というこれも菅原道真ゆかりの神社がありますけれども、こういうような2つもあるところですから、そういうまちづくりも確かにできようかと思えます。薬剤のことについては何か市民部長ありますか。白石課長からちょっと。

【都市政策課長】 履脱天満宮の松、私も一度現場見させていただきました。非常に手入れされている松だと思います。それで天満宮につきましては景観樹林保護地区ということで奨励金、維持管理するための費用を出してる状況でありまして、私もちょっと前聞いたんですけど、その松に対してやはり市のほうで維持管理してほしいという要望は聞いたことあるんですけど、今現在部内で検討しておりますのでまた持ち帰り検討させていただきたいと思えます。

【市長】 どうなんですか、109本、市内では1番ぐらいなんですかね。

【男性】 現地見てもらったらわかるんですけど、路肩が崩壊している。3年前にも氏子で土盛りまして、そうせんと松枯れるから手入れしていく必要がある。

【市長】 わかりました。109本覚えました。これについては持ち帰らせていただいて必ずお返事をいたします。

【男性】 生石地区で自主防災組織の連合会長やっております。昨年3月11日の東日本大震災がありまして、既に防災計画とか見直しをしてるということで、松山市もこれに伴って見直しをされてると聞き及んでおります。ここ生石地区は、西が瀬戸内の海岸、それから松山空港、それから帝人をはじめ企業工場群、それから南には重信川、石手川、こういうふうな水系。それから地域内には堂之元川とか洗地川という水系がある。それから松山空港には3本のアクセス道路がある。新空港道路、旧空港道路、空港道路と東西のアクセスは3本もあると。ただ、南

北、これは北吉田から南吉田、垣生、県道22号線、これ1本が大きなメイン道路。この県道22号線以西は以前は吉田浜という浜であるということで当然砂地やと。大地震があった時に液状化も十分考えられるような地域であるんじゃないかと思います。この県道22号線と空港道路、これは緊急輸送道路で市から指定されとる。また避難路でも指定されております。こういう地域ですけれど、いずれにしてもこの周辺地域は海拔が6メートルから8メートルぐらいしかありません。市の避難所として指定されている生石小学校、それから西中学校、生石保育園、生石公民館、高岡分館、北吉田分館、こういうところも標高がそのぐらいです。これらの地域は小水路とか道路があっても非常に狭隘の道路である。こういうところで何か災害があったときには避難所に避難しなければならない。これが園児とか学童、生徒の普段は通学路となってるわけです。風水害においては非常に水が出て通学も怖いようなところもあります。したがって、これからできるだけ速やかに耐震化とか液状化の対策を、特に避難経路でありますその通学路の周辺について何とかしていただけないかというのが1点であります。それからできれば小学校や中学校を防災拠点化のような形にして、市長さんが言われた地域にとっては小学校中学校は本当に地域コミュニティの大きいところにありますので、防災の観点からもこれをさらに強化していただけるような施策を何かお願いできればと、それが1点です。もう1点は、3.11、大津波がきたときに先ほど言いましたように6メートルから8メートルの海拔しかないようなところだと、屋上に逃げてもなかなか十分じゃない。小学校で約3,800名の収容人員、中学校でも大体3,800名。生石地区に住民登録しとるのが約1万8千人。昼間だと大体3万人くらいの働く人。したがってこれを全員収容するっていうのはなかなか難しいんじゃないかということで、近くに垣生山があります。これ118メートルあります。それからここには林道、登山道、人が何とか登れるようなところがあるんですが、せいぜい40メートルか50メートルくらいまで何とか登れて遊歩道できて子どもでもおばあちゃんでもおじいちゃんでも何とか時間内に登れる、避難ができるそういう遊歩道のようなものを整備検討していただければ、というのが2点目でございます。

【市長】 このことについてはまず防災の岡本課長のほうからお話をさせて、私があとでちょっとつなごうと思います。

【消防局総務課長】 消防局の岡本です。私からはまず小中学校の防災拠点化ですけど、小中学校は市内すべて避難所としての取扱いをさせていただいて、避難民の受け入れ場所という形をとっております。今言われました防災拠点化ということですけど、避難所マニュアルには避難所は防災拠点を目指すという書き方を書いておりますので将来的にはそういった形がいいのだろうと思いますが、消防体制から見ると、防災拠点といいますのは、全国的には消防、自衛隊、そして警察、これが拠点とする場所を防災拠点という言い方をしております。小学校の避難所を防災拠点化するということは、そこから活動を始めるという見方にもとれ、活動資機材とか物資とかを置かなければならなくなりますから、今のところは救援物資とか避難所で必要な物資、そういったものを置いて避難者が一時的に生活できるスペースを確保をするという形をとっております。将来的には防災拠点化がいいと思いますが、今は避難所としての取扱いをさせていただいております。関連で避難所と避難場所という違いがあるんですが、一時避難場所という扱いをしている公園とか緑地広場に、一時的に緊急的に避難する。東日本の震災でやはり津波という印象が多くありますし、生石地区ですと沿岸に近いということで津波意識はあると思うんですが、火災も十分気を付けていただきたい。ですから火災が発生してお年寄り、また子どもさんたちが緊急的に避難しなければならない所はやはり公園。まず公園に身の安全をそこで守っていただく。二次的に集まった段階で成人の若い方が避難所、学校、小学校、中学校へ誘導していただく。というような形で災害によって避難場所を変えていく。津波に対してもそうです。まずは高いところに避難する形で一時避難場所、避難所、高台とかいう形で考えていただいたらと思います。

【市長】 はい。一旦私引き取りましょう。あとで垣生山のことお願いします。防災について松山市の取り組みについてお話をさせていただきます。防災についてはこれまで松山市はすごく積極的にやってきてます。ですので一安心していただきたいんですけども、どういうところでそれが言えるかと言うと防災士という存在がいっぱいいます。普段は住民の方々に啓発活動をする。そしていざ、災害が起こった際には避難誘導する防災士がいます。松山市52万人弱ですけども、防災士が1,157名、1月末現在でおいでます。この数字は全国的に見たら自治体別ではトップの数字なんです。2位が大分市、3位が名古屋市です。名古屋

市は230万人の都市で、松山市が52万人ですけどもその名古屋市よりか多いんです。なぜか、それは松山市は、防災士は大事だからいうので、公費で防災士を育成したからです。だから今1,157名。全国の自治体別でトップの数がいっぱいあります。で、あの東日本大震災で見たように消防職員だけの手で足りるかということととてもとても足りません。そういうときに大事なのが消防団。今消防団の数ってどっこも目減りしてるんですけどおかげさまで松山市は消防団員数は四国で1番です。女性消防団員は日本で2番目に多い。1番は千葉市です。このように積極的な取り組みができています、松山市は。これについては皆さんには安心をしていただきたい。で、これまでやってきたことを継承、発展させていきますのでしっかりと防災のまちづくりはしていきたい。ここで皆さんに1つ伺いたいんですけど、松山防災マップ、全戸に配っております。去年3月に配っておりますけれど、この表紙を見たことある方、手を挙げて下さい。ありがとうございます。じゃあ中身までしっかり見たよという方、手を挙げて下さい。ありがとうございます。これ、減るんですよ。実はこれ、去年3月の頭に配ってその後に東日本大震災が起こったんですけど、皆さん、東日本大震災が起こったからといってこれが全部役に立たないかといったらそうじゃないんです。役に立つことがいっぱい詰まってるんです。生石地区は68から69ページに載ってます。ぜひ、帰ったら見ていただきたいんですけども、中開いていただいたら生石の北地区、南地区、分けて地図が載ってます。例えばこの蛍光色がついてるんですけど、前の防災マップはもうちょっと蛍光色が派手かましかったんです。でも、目のちょっと不自由な人からするとこの蛍光色って見にくいんだそうで、ちょっと柔らかい蛍光色にした。こんなことまで気配りをして、愛媛大学の矢田部先生という防災の専門家の先生がいらっしゃいますけれど、そういった方ともお話をしながら作ったのがこの防災マップです。どこが避難場所かも書いてあります。何を準備したらいいのかも書いておりますのでぜひこれを見ていただきたい。開けて1枚目のところにあるんですけど、防災意識アンケート松山市民に聞きました。何らかの災害に遭遇すると思っている人75パーセント、4人に3人の人が何らかの災害に遭遇するだろうと思っている。でも、地震に備えて家具の固定をしている人、東日本大震災もうテレビなんか飛ばないかっていうくらいの勢いで揺れてました。家具固定をしている人、19パーセント。逆に言うと80パーセント

の人がしてない。ですから皆さんどうぞ、3月11日の東日本大震災があったから全部役に立たないということではないんで、十分に役立つことがありますんで、これを見ていただいてしっかりと備えをしていただいたらと思っております。じゃ、垣生山のことを。

【消防局総務課長】 続きまして垣生山の避難場所についてお話させていただきますが、津波のメカニズムで、今、県が国の防災会議の防災計画に基づきまして被害想定、津波の高さを設定していますのは2メートル40センチが最高高で想定しております。到達時間が2時間10分に2メートル40センチに来るだろうというのが今の被害想定です。太平洋の海溝の地形と瀬戸内海の海底の様子が全く違いますので、スピードとか津波の圧力これはもう全く違ってきます。そういったところで2メートル40センチの津波が来るまでには2時間10分、第1波が到着するのは2時間10分ですが、2メートル40までくるのは今の想定では5時間50分後までに到達するという数字になっております。ただし、この東日本の大震災が契機となりまして見直し図られてるところですけど、あのような大きな津波は瀬戸内海にはなかなか来ないのではないかと考えておりますが、これまだ国の方針が出ないとわかりません。ですからあんまり敏感にならないようにしていただいたらと思います。

【市長】 私から1つ。今、国において東日本大震災が起こりましたから見直しをしております。これ、市が先にすればいいじゃないかって思われるかもしれませんが、市でできることは先にやります。例えば消防団の方がなかなか連絡がつかなくて津波にのみ込まれたということがありますので、国の3次補正も利用してライフジャケットを装備するかトランシーバーを増やすとかそういうことはしております。松山市としてできることはしてまいります。愛媛県内には20の市、町があるように、ざっと言いますと全国には、市はおよそ800あります。町は800あります。村はおよそ200あります。合計1,800弱あるんです。東海地震、東南海地震、南海地震、日向灘まで今4連動の地震が想定されています。関西、西日本と考えると900の自治体にまたがるような話です。ですからこれは1つ1つの自治体がすべきことではなくてまず国がすべきことで、国において指針が出て国の指針に基づいて県も変える、市も変えるっていうのが1番いいやり方だと思っております。市が変えた、次に県が変えた、国が変えたという

たらばらばらになります。いざというときの基準はシンプルであるべきだと思っておりますので松山市としてできることはもちろんやっていく。で、国において指針が出たら直ちに變更してまいりますのでそのような形でやっていきたいと思っております。もちろん、これからも皆さんの安全、安心が第一ですからその方向でやっていこうと思っております。

【市民部長】 あとお答えしてない点が2点、1点は垣生山公園の遊歩道の件、私も1度登ったことありますが非常に眺望がよくて飛行機が飛ぶところが目の下で見えるところだったんですけども、風化砂岩のところをやってるんですがあれ民間の土地なんですね。展望台つくったときに土地所有者の了解を得て地元の総意で行政が上につくった経緯があるんですけど、その道は個人の土地なんでなかなか遊歩道として整備するのは難しいということがございます。ただ、解決方法として桑原に淡路ヶ峠っていうやはり眺望のいい山があるんですけど、そこも同じように展望台があります。その道を、桑原ではおやじの会とか地元のボランティア団体が道普請して、上まで至る道をつくった。そういう成功例もありますので、行政も例えば現在農道とか林道だったら整備する方法もありますし、そのあたりもう1回本当に地元と行政で連携できることあったら一緒に相談してみませんか。また別の機会に相談していただきたいと思っております。道の改良についてですが、今、白石課長と相談させていただいたんですけど、狭い道を全面直すということは家も建つとんで難しいことではございますが、もしこことここをやれば随分違うなっていうのがありましたら、後ほど具体的にこことここだけ優先度が高いっていうことを話していただきまして、できることがあれば持ち帰らせていただきたいと思っております。

【男性】 私、災害について。これは皆さんも心配されとると思っておりますけど、個人でどうしようもない、東北で原発の事故がありましてそれは個人でどうすることもできない。これは国とか県とか、そういう組織の政策のもとで改革して直していかないかと思う。それで今、四国も原発が身近にあるわけです。非常に心配するのは、中央の断層が伊方原発のすぐそばに走ってるわけです。東北みたいな大震災とかが起こったときに非常に心配。もう1つは、今の原発の中で伊方3号機、プルサーマル発電というこの3号機の放射線の出るものは非常に猛毒であって、これをひとつ、非常に私たちの生命に関わる問題ですので、これを将来、

市として、経済を優先するかそれとも生命を優先していくかという大きな問題になるかと思うんですけど、やはり私たちの生命を守っていくというのは非常に大事なことであって、今3号機に使ってるプルトニウムこれはもう猛毒なんです。これがもしそういう災害があったときに起こる可能性はあると思うんです。そういうことを含めて、これから代替の電力をやっていくにはいろいろと、まだまだ方法があって見通しもたつと思うんですよね。そういう意味でこれから県にしろ、特に今日市長みえておりますので、これからの方針として原発問題をどのように政策を考えていかれるかこれをお聞きしたいと思います。

【市長】 やはり皆さん自然災害に対する関心が高いようです。私原発のことは長い目で見た脱原発と思ってます。すぐに脱原発できればいいんですけど、今四国電力管内におきましては電力の4割を原子力が占めているという現状がありますので、これを直ちにやめるということにはなかなかいかないと思います。私としては、いわゆる代替エネルギー、自然エネルギー、太陽光発電とか風力発電とか今はまだまだコストがだいぶかかりますけれど、勝岡のメガソーラ発電所に見学に行ったこともありますけど、太陽光発電って日陰になるとすとんと発電量が落ちてしまうんです。広大な敷地ですけど電力量はなかなか増えないという現状があります。そういった中で、できるだけ早く代替エネルギーがコストも安くできないかなと思っています。松山市はサンシャインプロジェクトと言いまして太陽光発電を積極的に進めてまいりました。松山は雨の少ないまちです。でも、雨が少ない、雨が少ないって言えるようでは何も生まれません。逆に前向きな発想で雨が少ないけれども太陽光がさんさんと降り注ぐところ、何かできることがないかっていうことで、松山は日照時間2,055時間、全国平均からいうと1割日照時間が長いんで、太陽光発電を進めるのはいいんじゃないかっていうことで、国が補助をやめても松山市は補助を続けて太陽光発電を進めてまいりました。このように松山市はできる限りクリーンエネルギー進めていきたいと思っておりますので、長い目で見た脱原発っていう形になりますけれども、できたら早くコストがかからないでほかの代替エネルギーができればと思っております。原発自体がいわば国策として進めてきたことですので全国市長会なんかを通じて、国が国策としてやってきたんですからしっかりと安全対策はしてくれと強く申し入れはしているところであります。

【男性】 今日、テレビのニュースで一方通行の件、自転車の件で95パーセント達成したというすごいい話がありまして、学校でも年に1回自転車教室していただいているんですが、どうしても1回きりなので、そのあとお父さんクラブやおやじの会などで自転車教室開いても、結局子どもたちは何も覚えてないのが現状なんですね。やはり私たちPTAだけでは力不足なのでそれを、低学年、中学年、高学年といった形でもうちょっと回数を増やしていただければ今後、中学校行っても自転車の事故が減るのではないかと考えております。あともう1つ、分館長もさせていただいてまして、この度分館を新しくしていただきありがとうございます。そのときの備品とかも、できるだけ安く購入したいのが町民の考えであります。私たち販売してるほうでもあるので一生懸命営業もかけるんですが、なかなか難しい部分がある。メーカー品じゃないといけないという考え方もそろそろちょっと考えて、メーカーがB級品を出しているのも少しでも低予算で町民に負担がない方向にいけたらよかったな、今回もう終わってしまったんですが、次回ほかであれば改善できればいいなと考えております。2つの点ですがよろしくをお願いします。

【生涯学習政策課長】 教育委員会でございます。自転車の交通安全教育、学校のほうで計画的に実施してると思うんですけども、詳細把握しておりませんので、もし今の回数を増やすということであれば、学校教育とも協議の上で検討させていただければと思います。

【市長】 自転車教育についてお話をさせていただきます。実はやります。自転車教育は大事だと思ってまして、去年から何かできないかと研究をしてました。今、本当自転車のマナーが悪いですよ。松山市の総合計画つくってまして、そこで市長と語る若者会議やって驚いたんですけど、若者がすごくマナー悪い、高校生とかが角で自転車ブレーキもかけないで出てきたりして危ないと思うことありますよね。でも市長と語る若者会議って高校生や大学生が来てたんですけど、その高校生や大学生が自転車怖いですって言うてるんですよ。加害者であり被害者である側面が見受けられる。中学生が高齢者の方とぶつかってっていう重大な事故も起きてしまいました。例えば子どもと手つないでて手ほどけることありますよね。子どもがほどけてばたばたと歩いてそこに自転車に来て子どもがはねられるとかはあってはならないと思うんです。ですから今自転車が通るとこと歩

行者が通るところ、スペースがあるんだっただけ分けてあげようっていう動きをしているところです。何をやるかって言うと、子ども免許証を4月からやる予定でいます。これはちゃんと子どもたちに自転車の教育を受けてもらって、小学校3年生から自転車免許証を発行することにします。この免許証はただ紙1枚でやると捨てられます。で、これを持っていると例えば市内の施設が割引になるとか、そういうの持っているとお父さんお母さんも捨てません。6年生まで大事に持ってくれますのでそういう自転車免許証を考えました。そこに誓約してもらいます。名前書いてもらって、「僕はちゃんと自転車のルールを守ります」、「私は自転車のルールを守ります」って署名をしてもらう形で自転車免許証、子どもって、県警のそういう教室で免許とか貰ったりするとすごく喜ぶんですよ。でするのでそういう免許証を発行して楽しみながらもしっかりと自転車のマナーについて学べる機会をつくっていきたいと思ってます。松山市として自転車教育しっかりやっていこう、歩行者と自転車をはっきり分けていこう、この流れでありますのでしっかりこれをやっていきたいと思えます。

【生涯学習政策課長】 分館の備品の購入の基準について。高いもんじゃなくても、もっと金額の低いものでもいいんじゃないかというお話。分館の備品等購入する場合に一定の基準があって、入札等で購入するわけですけど、必ずしもメーカーを決めてるわけではなくて、同等品が入るということにはしてると思えます。具体的に、またお教えいただければ、あとで回答させていただければと思います。

【市長】 あれお金渡して自由を買ってもらうのはできないんですかね。難しいんですかね、やっぱりいろいろ経緯があって。

【生涯学習政策課長】 一応、分館の備品買う場合に地元の負担金をいただいていると思うんですよ。で、市のほうで購入させていただくというふうになっておりますのでお金を渡すというのはなっていないということでご理解をいただきたいと思えます。

【男性】 高岡団地で21年に公民館建て替えたんですよ。そのとき、市のほうからいろんなものそろえていただきました。ありがとうございました。

【市長】 ちょっと持ち帰りさせていただいて検討させていただきます、はい。

【男性】 私は平成12年から18年の間松山市の公募によって行政改革の仕事

をやらせていただきました。非常に勉強させていただきました。そのとき1人1分で自分のビジョンを話して下さいと言われましたので、私は高齢者健康維持のため、生涯スポーツであるグラウンドゴルフの認定コースを松山近郊に設けて欲しい。目的は健康維持とできるだけ介護保険を利用しない健康な高齢者であるために提案いたしました。その回答が2つ返りまして1つはもう現在使わせていただいております空港東公園でございます。2番目の回答として「生涯スポーツであるグラウンドゴルフの公認コースの整備については今後高齢社会において重要な健康増進施設であると認識しています。そのため整備においては身近な市の公園などの中では少し狭いので大きな公園整備の中で検討するという2ヘクタールから3ヘクタール程度であるため、用地確保や財源なども含めて検討していきたいと考えております。」この回答をいただいておりますが、私は現況を踏まえて次のことを提案したいと思います。いつも城山公園、堀之内を歩きながらお城を眺めながら考えながら空想しながら、この公園でグラウンドゴルフのゲームができれば楽しいだろうなと思うことが度々あるんです。もしこの公園を利用できるならば交通アクセス、バスも可能、CO2の減少にもなり、まちも活性化し、利便性もよくなってくると思われれます。現在大会はたくさんありますが、車に乗り合わせながら行っておりますが、高齢化の身の上安全にも配慮は必要となりました。楽しく安全で過ごせる城山公園堀之内を利用させていただきたく提案いたします。以上です。

【市長】 これ、堀之内でのグラウンドゴルフ利用ってことですね。

【市民部長】 今城山公園は芝生の部分と土の部分があるんですけど、簡単な球技だったらできる場所もあるんです。ですからぜひそのあたり公園緑地課に相談していただきましたら、半日使用とか大会だったら1日使用とかいう形でできると思いますのでぜひどんどん使っていただきたいと思います。利用料はそんなに高くはないとは思いますが1面使用という形になっておりますのでぜひ有効活用していただきたいと思います。ただ、芝生の部分についてはまだ散策というふうに限らせていただいとると思いますので、ちょうど市民会館の北の土の部分が見えらると思いますのでよろしく願いいたします。

【男性】 3点ほどお願いがあるんですが、1点は松山市道に石とかブロックとか置いてるところとかまた庭木が道路に出て交通の便が非常に悪い状態なことがあ

ります。年間3から4件はあるんですけど、私たちがお願いに行ったら切っただけとともあるんですけど、なかなか切ってくれんともあります。そういう場合松山市はどう対処していただけるのか。もう1つは、愛媛県の高齢者の交通死亡率は全国でも1番なんですよ。平成20年は82名亡くなってそのうちの58名が高齢者70.1パーセントです。これは全国で1番なんです。また、21年も81名亡くなって56名が高齢者、69パーセントでこれは全国で第4位です。また、22年も64名亡くなりましてその内の42名が高齢者で65パーセントで全国で第4位となっております。昨年は91名が亡くなりましたが高齢者は43名でしたかね、47.3パーセントで32位になりました。このように愛媛県では高齢者が非常に死亡率が多いんです。保育園とか小学校1年生とか4年生の場合は自転車教室などやっておりますが、高齢者の交通安全教室はあんまりやっておりません。交通安全教室は西交通安全協会と松山市の総合交通課が合同で実施しております。松山市に51地区があって約550名なんですけど、さっき言った防災1,150人あって日本一とか言われましたけど、交通安全の死亡率も日本一なんでぜひもう少し高齢者の交通安全教室に力を入れていただきたいと思っております。もう1件はお話が度々出ておりますが、垣生山公園の再開発です。市長さん上がられましたか、垣生山公園。

【市長】 まだ上がってないんです。上がりたんですけど。

【男性】 ぜひ4月の桜が咲くころかつつじが咲くころ上がってみて下さい。非常にきれいです。松山城とか、石鎚、砥部、伊予市、天気の良い日には広島の高尾まで見える最高の絶景のポイントです。皆さんも高齢化になってますんで「山に登りたかっても登れんけん寂しいわい」という話を度々聞きます。ぜひ道路の整備をしていただきたいと思っております。また、垣生山に登る場合はみかん畑がたくさんあります。今まではみかんの花の香りを嗅ぎながら登っていたんですけど、最近高齢者が増えたためかみかんが安いかわかりませんが、みかん畑をやめてる地区がたくさん出ています。3年もするとすぐ雑木山になるんですよ。ぜひ松山市でそういう土地を借り上げていただいて桜の木を植えて欲しい、それともう1つ、先ほど防災でもお話がありましたけど北吉田からは3本の農道、この高岡地区からは4本の農道があります。桃山の町内会も11月には防災訓練で避難訓練もしましたが非常に道路が狭い。車椅子とかお年寄りには登ることができませ

ん。せめて、中腹の約60メートルまでは誰でも上がれるような道路をつくっていただきたいと思います。以上の3点よろしく願いいたします。

【市長】 私コンパクトにお答えさせていただきます。まず、市道のことですが、4メートル以下の道路の場合、後退していただかないといけないんですよ。で、後退したもののそこに植木を置いているとか石を置いてあるとかいう例は見られます。ブロックを置いているとか。これは、この間宮前のタウンミーティングで出まして、素鷲でも4メートル以下の道路で家を建てる時にちょっと下がってもらったんやけども、下がってもらった所に石を置いてる、ブロックを置いている、植木を置いているみたいな例が出ました。で、2地区目出たところから松山市役所動き出しております。これまでは、後退してもらったところで石だったりブロックだったり植木というのは個人の財産なのでこちらがのけて下さい言うてもなかなかのけてくれない方もいた。強制的に撤去っていうのはできなかったんですけれども、今回3地区目で話が出た。この間2地区目でも話が出ましたので、もう1歩踏み込んだ対応をしていこうと動き出しているところです。また、垣生山のことについて、本当できたら「わかりました、やりましょう」って言ってあげたいんですよ。言ったら私も楽なんですよ。市長言うこと聞いてくれたいうてある意味市長の人気取りだけ考えたら私「はい、わかりました」って言うことが一番楽なんです。でも、申し訳ないんですけど、現状を申し上げます、中四国の中で松山市は2番目にいい財政状況だって言われています。1位は徳島県の阿南市、青色発光ダイオードの会社があります。そんなに大きな市じゃないんですけれどもそういう大きな会社がありますので阿南市が1番財政状況がいいって言われています。松山市が2番目だって言われてますけども、その松山市で1年にお金が出て行くほうを歳出と言いますけども、歳出、円グラフを書いて下さい。1番多いウエイトを占めているのが民生費、福祉にかかるお金です。これが40パーセントを占めます。この民生費が前の年と今の年で松山市だけで50億円増えました。その中の生活保護費は1年間で松山市だけで20億円増えました。ご存知のように国は1千兆円の借金を抱えております。皆さんも学校で習ったように地方交付税交付金とか国庫支出金っていう形で地方にお金がまわってきていました。国に1千兆円の借金があるんだったら地方にこれからまわる金が膨らむとは考えにくい。と考えると例えば20億増えたんだったらどっかで削らないと

財政のバランスはとれない。どんどんどんどん下り坂になってしまって、ここで「いいですよ、これもやりましょう、あれもやりましょう」で言ったら私は楽ですけれど、これは将来の子どもや孫につけを残すことにほかならない。ですから何もやらないっていうわけじゃないんです。当然やらなければならないJR松山駅周辺整備事業とか松山外環状線とか水のことですとかはやる。選択と集中でやらなければならない状況です。ですので、私も「わかりました、借り上げましょうとか、道つけましょう」とかって言えればいいんですけど、全体を見ながらやらなければならないという状況をご理解いただけたらと思います。私もまだ垣生山登ったことないので瀬戸内海が見える素晴らしい桜を植えてるっていうのを聞きましたのでまたちょっと折を見てできれば春に登ってみたいと思います。答え漏れしてないですかね。

【都市政策課長】 高齢者の交通安全教室の開催についてですけど、おっしゃる通り総合交通課が担当しております。そこで総合交通課にまた要望していただきましたら高齢者を対象にした交通安全教室や自転車に関する教室などいろんな対策について警察、また交通安全協会等関係機関と連絡を取りながら取り組んでまいりたいと思いますのでどしどしまたご要望出していきたいと思っております。

【市長】 地区でこういう意見出たよというのは必ず課に伝えますので。

【男性】 生石公民館長でございます。いつもお世話になっております。館長になりまして3年目ですが、当初から、「みんなでつくろう、みんなの生石」をスローガンに、事業のやり方づくり方から変えております。先ほど市長から学校が文化の中心、地域で子どもを育てるというお話をいただきました。生石地区は大変子育てに熱心な地域だと思っております。生石小学校を舞台に放課後子ども教室という文部科学省の事業を受けてやっておりますが、大体子どもたちが年間に4,500人延べ人数、地域の方々が800人程度ご参加をいただいております。子育て支援を通じて高齢者も元気になるまちづくりにつながっていると思っております。小学校、保育園、幼稚園それぞれ公民館との連携はうまくとれてやっておるんですが、子ども1人を0歳から18歳までずっと連続した育ちの中での支援ということを1人1人応じてやっていければっていうふうに思っております。いろんな国の制度やまた福祉のほうでも様々な支援の制度があろうかと思っております。そういうところをうまく使いながら松山市も先ほど財政のお話を聞いて大変恐縮なんで

すけれども、しっかり出すところは出していただいて、子育ての支援をいただきたいと思っています。私たちもやることはしっかりとやっていきますのでどうかよろしくお願いをいたします。

【生涯学習政策課長】 放課後子ども教室につきましては、生石地区非常に熱心にしていただいております。月曜から土曜、それから長期の休暇のときにも、コーディネーターとか地元の学習アドバイザー入っていただきまして、非常に熱心にしていただいていることに敬意を表したいと思います。0歳から18歳ということではいろんな形で公民館でできること、例えば家庭教育に関すること、乳幼児のことについての学習、お母さんの講座とかも開催できると思いますし、学校でも当然小学校なり、中学校という年代に応じた教育は当然なされてる。いろいろな問題がある場合には教育支援センターで0歳から18歳に関するいろんな相談にも応じているということですが、今後まだまだ十分でないところがございますので、関係機関と連絡取り合いながら充実させていくようにしたいと思いますのでどうかよろしくお願いをいたします。

【市長】 ごめんなさい、私1つ言い忘れしてました。先ほど市道後退で植木とか石とかブロックとか置いてる場所あとで言っていたら把握ができますので、担当に言っていたらと思います。白石課長が担当ですのであとで言っていたらと思います。

【男性】 この地区には知的障がい者の通所施設があります。現在は生活介護事業所というそうです。木工を初め折り箱、あるいは箸入れ、軍手加工などいろいろな仕事をしておりますけれど、障がい者の働く場は極めて乏しくまた賃金も安い状況です。行政の支援は望めないでしょうかというのが1点です。2点目は独居高齢者が非常に増えております。この独居高齢者が死亡したときに民生委員として世話した経緯もあって、家の整理にタッチしたが大変苦勞した。で、この間行政の助言、指導はなかった。親族、遺族がない場合、あるいはあっても放ったらかしの場合、一体どう対応すればいいのかということです。3点目、外環状線の工事が進んでいるようですが、これができることによって架橋下がフェンスで仕切られるそうです。そうしますと今まで利用していた生活道路が分断されて非常に遠回りをしなきゃならないことが起こる可能性があると思います。交通弱者、特に高齢者、子どもたちの生活道路を分断しないでほしいということです。それ

から4点目、ここの地区には堂之元川、洗地川がありまして地区住民の散歩、ウォーキングコースになっておりますが、緑も少なく極めて川も汚いです。これを環境整備を望みたいと思います。以上です。

【市長】 それでは私からは、障がい者のこと。独居のことは大濱課長、分断のことは白石課長ですかね。で、川の整備は市民部長。知的障がいの方のことにつきましては、まさに思いは一緒だと思います。今年4月から、障がい者工賃レベルアップ事業という新しい制度をつくることになって、今度議会で審議をしていただくことになるんですけど、昨年7月から障がい者の方が古着とか廃食用油とかを回収をしてという、これ生石公民館さんもお協力いただいております。起点になったと認識をしておりますけれども、そういう事業がやってみて、それを拡大していきたいと思っております。思いは一緒だと思います、これからもやっていきたいと思っております。

【保健福祉政策課長】 それでは保健福祉部から独居高齢者のことについて申し上げます。独居高齢者がお亡くなりになられたときのことについてですが、高齢福祉課には担当が24時間体制で電話を受けるようになっております。あとの財産の処分についてはまたそのときのご相談になろうと思っておりますが、担当にご連絡をいただいたのちに高齢福祉課あるいは保健福祉部全体で協議をしてまいりたい。これは個々の事例ごとに相談を受けないと、一般的なお話でこうですよってことにもなりませんので、担当にご連絡いただいた後に体制を組みたいと思っておりますのでよろしくお願いをいたします。

【都市政策課長】 外環状線の整備につきましては、今現在、国、県、市三者で事業を行っております。そこでお尋ねの生活道路の分断の箇所につきましては、また具体的な箇所を教えてください、外環状道路の構造上安全であれば生活道路を分断しない形で検討したいと思っておりますのでまた個別のご相談していただければと思います。

【市長】 またこれ終わったあとに言っていただければ。遠慮なく相談していただければと思います。

【都市政策課長】 それで、今現在、空港通りまでは県が施工する箇所で幅杭を打ってます。幅杭打った後にそれぞれの個人個人の境界を確認します。その際に現場で協議になると思っております。ですからできるだけ早い段階で、こういう要望が

ございましたら県なり市なり来ていただいたほうが早い解決ができると思いますのでよろしくをお願いします。

【市民部長】 最後に堂之元川と洗地川の景観についてなんですけれど、まず、堂之元川は河川改修終わりましたして県に引き渡しております。堤とうのかさ上げ、それから土^ど羽^は、草等を植えて安定化する工事をやっておりますして堂之元川はこれが終了して県に引き渡しております。もう1つ洗地川についてはさくら小学校のちょうど北のあたりからずっとやっておってこれもでき上がったらお渡しします。多分今おっしゃった汚いというのは、例えば不法投棄があるとか土砂が溜まってそこにススキが生えたり草が生えたりして非常に景観が悪いという意味ですよ。これにつきましては県管理の段階でしゅんせつするとか、廃棄物、不法投棄物を引き上げてのけるとかについては定期的にやっていけるとは思いますけれど、もしそれが目に余るようでしたら市に言っていただいても県につながますし、県の地方局に言っていただいても構いません。わかる方法で我々できるだけ対応しますのでまたお知らせいただけないでしょうか。以上でございます。

【男性】 せっかくの機会だから市長にいろいろお聞きします。久保田と富久のあい中に洗地川って流れてる。この川が私の散歩コースですけども非常に汚いんですよ。車で通りすぎりにごみ投げてね、ポリ袋で家庭ごみを。拾い上げて処理したいと思うけどまず川に下りれんのですね、今、柵で。安全面と思うんですけど逆にもし、小さい子どもが落ちたら怖いな思って。下りるところないし。どうやって下りたら。で、上がるのが怖いし。それと、ゴミを拾い上げたときの処置が例えば自転車なんかだったらめんどい、拾い上げたら。もう放っといたらいい。見ても見んふり、そういうことでいいのかな。河川管理に関してお聞きしたいんですけど。

【市民部長】 私、市民部長で所管ではございませんけど今の意見については、しっかり下水道部に伝えて、まず1つは不法投棄物が落ちとるときにはどういう形にすればいいのかということと、もう1つは安全対策ですね。

【男性】 下りれんのですよ。もし子どもが落ちてても。

【市民部長】 はい。そのときにどうするか。そのあたりまた早急に連絡、回答させていただきます。私も余土の人間でよく歩きますんでおっしゃってる意味はよくわかります。それは、すぐに回答させていただきます。

【市長】 時間が来てしまいました。本当は手挙げたかったんやけど挙げれなかったって方もいらっしゃるんじゃないかなと思います。松山市では市長へ直接メールが届く、必ず目を通しております、市長へのわくわくメールという制度があるんですけども、これを利用してお声をいただくこともできますし、またはがきでもあります。ですのでそういった機会をまた利用していただいたらと思います。私皆さんとできるだけ顔を見ながらしゃべりたいので立って話をしたんですけども、職員たちは座っておりました。これは、反抗してるわけじゃなくて、ちっちゃい文字の資料が目の前にありますから、立つと眼鏡しないと見えないのでそういう意味合いですので、私はどちらかという大きな方向性をどんとお話を、で、細部については部長、課長たちがやりますので、どうしても資料見ないと間違えたことを回答するわけにもいけませんので私は立ってお話をしたということですのでご理解をいただいたらと思います。今回、生石に来させていただいて、やはり沿岸部ということもありまして災害への備えというのが大変意識が深く持ってらっしゃるなと思いました。これからも、冒頭申し上げたとおり、市民の安全、安心が第一だと思ってますので、この備えもしっかりとしていきたいと思っております。今日、本当に前向きな議論をいただきました。しっかりと持ち帰らせていただきまして、検討させていただいて1カ月を目途にお答えをさせていただきますのでよろしくお願いいたします。本当に今日は前向きなお話をさせていただいたと思います。また細かいところがありましたら、担当の者に言っただいただいたらと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。

——了——